

第32期昭島市社会教育委員会議

活 動 の 記 録

令和6年9月

目次

はじめに.....	1
第1章 第32期昭島市社会教育委員会について.....	2
1 任期と構成メンバー	2
2 主な活動内容	2
第2章 大会役員および大会実行委員の輪番について.....	3
1 令和4年度第64回全国社会教育研究大会広島大会(2022年10月26～28日)のケース	3
2 令和3年度第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会(2021年11月11日・第31期)のケース.....	4
3 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流会(2022年12月10日)のケース	4
4 令和5年度都市社連協第二ブロック研修会(2023年10月21日)のケース	4
第3章 第32期期間中に開催した役員会・大会に関わる昭島市の活動について.....	5
1 東京都市町村社会教育委員連絡協議会への出席又は開催した日程	5
2 一般社団法人全国社会教育委員連合関連の会議に出席した日程.....	6
3 令和3年度第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について.....	6
第4章 市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議(通称:あきしま会議)について.....	7
1 経緯.....	7
2 趣旨	7
3 第32期に開催したあきしま会議及び関連事項について.....	8
4 第65回全国社会教育研究大会宮崎大会参加における事例発表について	9
5 東京都立大学法学部「地域づくりと地方自治」ゼミの学生からの調査依頼について	10
第5章 社会教育委員視察研修(自主研修)及び関係委員会報告等について	11
1 社会教育委員視察研修(自主研修)について	11
2 関係委員会の活動報告について	12
3 社会教育関係委員研修会の開催について	14
第6章 今後の課題とまとめについて	15
1 今後の課題.....	15
2 まとめ	15
各委員のメッセージ	17
おわりに.....	19
第32期社会教育委員名簿.....	20

はじめに

昭島市社会教育委員会議は、昭和 35(1960)年 8 月 1 日に第 1 期がスタートし、令和 4 (2022)年 10 月で第 32 期を迎えましたので、62 年が経過したことになります。元号もこの間、昭和・平成・令和と変わっていく中で、社会教育委員としての委嘱期間は 1 期 2 年であり、今日まで月 1 回の定例会議を原則として開催し、活動をしてきました。「社会教育法」に規定された社会教育委員は、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行う等によって、社会教育に関して教育委員会に助言をする役割を果たすとなっております。従って教育長から社会教育委員会議に対し、意見を求められた際の「諮問」に対しては、会議内で調査研究し討議して意見書としてまとめ「答申」を提出します。また通常の際には、必要に応じて会議での討議・調査・研究を重ねて意見書としてまとめ「建議」を提出してきました。

しかしながら新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界中に感染拡大していく中、日本でも令和 2 (2020)年 2 月のダイヤモンド・プリンセス号での感染者発症を契機に、学校の休校や飲食店の営業自粛そしてテレワーク等社会生活自体が大きく影響を受けてしまいました。従ってこうしたコロナ禍での定例会議や「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」の活動状況について記録し、留めておくことが大事という考えに至り、同年 9 月末に第 30 期として昭島市社会教育委員会議は、初めて「活動の記録」を作成提出しました。

コロナ禍にあっても定例会議は、令和 3 (2021)年の 1 月からは Web 会議・書面審議で対応し、一度も中断することなく開催され、現在は対面とオンライン併合のハイブリット会議で活動をしています。その後新型コロナウイルス感染症の鎮静化を受け、令和 5 (2023)年 5 月に感染症の分類が 2 類からインフルエンザと同じ 5 類へ移行され、ようやく社会生活も制限が解除され始めました。そうしたさなか第 32 期令和 4 (2022)年 10 月～令和 6 (2024)年 9 月 は近年まれにみる多忙となる期になりました。

それは 11 年ぶりの令和 3 (2021)年 11 月に関東甲信越静社会教育研究大会東京大会の開催が引き金になっております。令和 4 (2022)年 1 月の時点での昭島市は、役員の輪番制により令和 3 年度東京都社会教育委員連絡協議会の副会長及び東京大会実行委員会副委員長を担当(事務局も同様)しており、同年 4 月からは令和 4 年度の同協議会会長と同時に、一般社団法人全国社会教育委員連合の理事及び関東甲信越静社会教育委員連絡協議会の副会長を担当しました。なお、令和 5 (2023)年度は同協議会会長職と全国社会教育委員連合の理事及び関東ブロック協議会の副会長職の任が解かれ、第二ブロック長のみを担当しています。ただ、これまで昭島市に会長市の経験は、少なくとも 2 度あるはずですが、残念ながらその記録が残っておらず、詳細は不明であります。

以上のことから、将来また会長市或いは東京大会実行委員を担当する際には、具体的にどのような職務を実施してきたかを記録として残しておきたいと考え、第 32 期は 2 度目とはなりますが、昭島市社会教育委員会議「活動の記録」を作成提出する運びとなりました。

第 1 章 第 32 期昭島市社会教育委員会について

1 任期と構成メンバー

第 32 期は令和 4 (2022) 年 10 月 1 日から令和 6 (2024) 年 9 月 30 日までの 2 年間を任期とし、学校教育の関係者 2 名、社会教育の関係者 3 名、家庭教育の向上に資する活動を行う者 1 名、学識経験のある者 2 名、公募による市民 2 名の計 10 名で構成され、期間中 2 名の交替がありました。このうち 8 名は前期からの委員であります。

2 主な活動内容

令和 4 (2022) 年度の昭島市は、東京都社会教育委員連絡協議会の幹事市(会長市)となったため、令和 4 年度交流大会・社会教育委員研修会(12 月 10 日)や令和 5 年度定期総会(令和 5 (2023) 年 4 月 15 日)等の一連の行事を主催しました。さらに令和 5 (2023) 年度には第二ブロックの幹事市として、10 月 21 日に第二ブロック研修会を主催しました。例年の活動としては、毎月の定例会及び第 29 期より社会教育委員が取り組んでいる「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」を 2 度開催し、立川市主催の第二ブロック研修会(令和 4 (2022) 年 10 月 29 日)や、関東ブロックの山梨県や栃木県と言った他県で開催する社会教育研究大会にも参加しました。なお、これまで每期実施してきた社会教育委員研修会(自主研修)は、新型コロナウイルス感染症抑止のため中止していましたが、6 年ぶりの令和 6 (2024) 年 2 月 9 日に日帰り日程で調査研究のため小田原市を訪問しました。活動内容についての詳細は、それぞれ後述します。

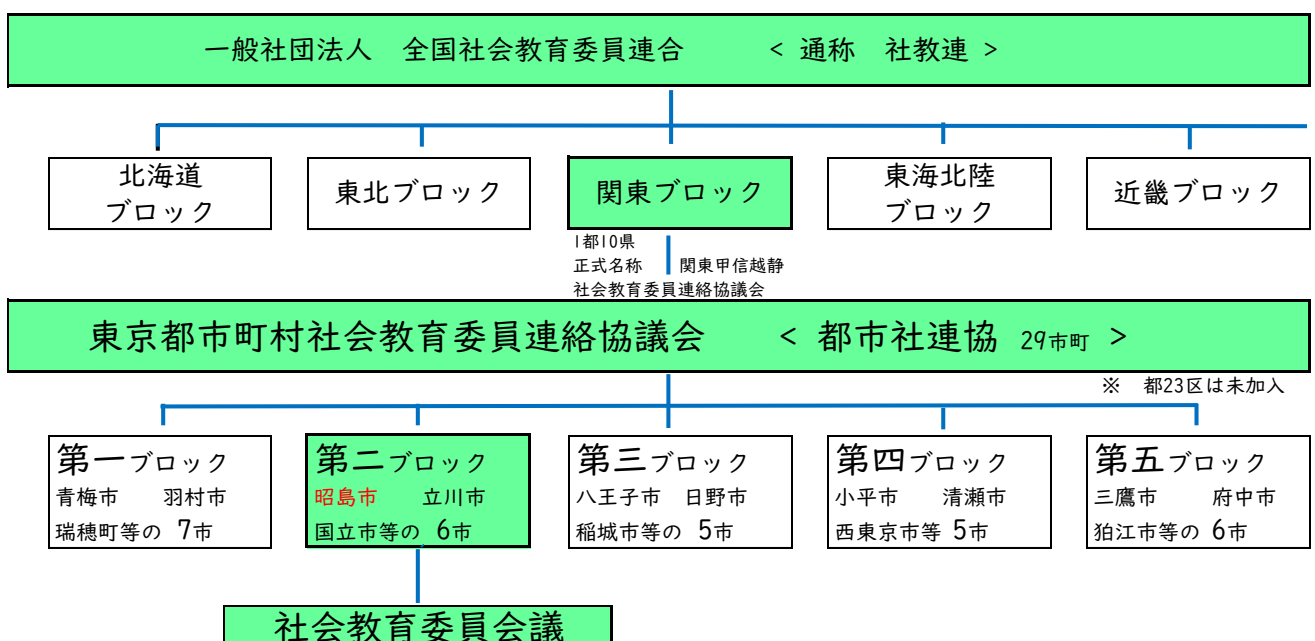
第2章 大会役員および大会実行委員の輪番について

我々社会教育委員のトップの組織は、一般社団法人全国社会教育委員連合(略称:社教連)であり、年1回全国社会教育研究大会が開催されます。社教連は、北は北海道から南の九州まで7つのブロック及び政令指定都市から編成されており、我々は関東甲信越静社会教育委員連絡協議会(1都10県で編成。略称:関東ブロック)に所属し、年1回関東甲信越静社会教育研究大会が開催されます。また関東ブロックの一員として、東京都市町村社会教育委員連絡協議会(26市3町の5ブロック編成。略称:都市社連協)があり、その中の第二ブロック(昭島市・立川市・国立市・国分寺市・武蔵村山市・東大和市)に所属し、毎年総会を初めブロック研修会及び交流大会・社会教育委員研修会が開催されています。

1 令和4年度第64回全国社会教育研究大会広島大会(2022年10月26～28日)のケース

大会の役員は、社教連理事兼会長及び副会長4名(当該年主催県と翌年開催の宮崎県の代表2名を含む)と理事(都市社連協の場合は会長市が就任)から編成され、大会実行委員長は広島県社会教育委員連絡協議会の会長でありました。原則的には毎年ブロック単位の輪番で年1回開催されており、その会場で理事会と総会も開催されます。ちなみに全国大会の第1回開催は東京大会で、昭和34(1959)年にスタートし第5回、第8回、第12回、第17回と過去5回開催されておりますが、それ以降全国大会東京大会は50年近く開催されておりません。なお、社教連の組織図を示すと以下のとおりとなります。

昭島市社会教育委員会議の組織的な位置関係



2 令和3年度第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会(2021年11月11日・第31期)のケース

大会の役員は、都市社連協の会長(府中市)及び副会長(前年度の新潟県と翌年開催の山梨県の協議会議長2名)と理事で編成され、大会実行委員長は府中市の議長となり、副委員長は幹事市が翌年の昭島市と翌々年の調布市がそれぞれ担当となりました。牧野篤東京大学教授の基調講演のあとのトークセッションには、当市の社会教育委員ニノ宮リムさちさんが登壇し、その中で通称あきしま会議の紹介を行いました。次回の東京大会は、11年周期の輪番制により令和14年頃が予想されます。

3 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会(2022年12月10日)のケース

大会の役員は、都市社連協の会長(昭島市)及び副会長(翌年幹事の調布市と翌々年幹事の町田市の議長)が担当となり、研修会実施報告が第一から第五ブロック単位毎にそれぞれなされました。続く社会教育委員研修会では、「孤独を解消する!だれもが対話し、つながる社会へ」というテーマで(株)オリィ研究所製の分身ロボットOriHimeとの対談形式による講演を行いました。昭島市が次回会長市になるのは、輪番制により20数年後になります。

4 令和5年度都市社連協第二ブロック研修会(2023年10月21日)のケース

大会の役員は、各ブロック内の市又は町の議長が輪番制により幹事を担当することになっており、当該年度の都市社連協の会長市(調布市)が、掲げる統一テーマにそってブロックごとに研修会が開催されました。輪番で第二ブロック幹事の昭島市のテーマは「自分の「願い」を知り、互いの「願い」をわかちあう」とし、渋谷聡子講師による体験型ワークショップ(対話によるグループワーク)を実施しました。昭島市が次回主催するのは、6年周期の輪番制により令和11年頃が予想されます。

第3章 第32期期間中に開催した役員会・大会に関わる昭島市の活動について

令和4(2022)年4月23日の定期総会において都市社連協の会長市は、府中市から昭島市に引継がれ、その際令和4年度事業計画での統一テーマは、昭島市が提案した「市民のニーズを活かす・つなげる社会教育～対話からつくろう これからの「学び」～」が承認されました。

なお、会長市は令和5年度は調布市に、令和6年度は町田市に引き継がれました。第32期の令和6(2024)年9月末までに出席又は開催した会議の日程は、以下のとおりです。

Ⅰ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会の会議等に出席及び開催した日程

	日 に ち	会 議 名	会 場	委員の参加数
31期	令和4年4月23日	令和4年度定期総会	府中市市民活動センター	5名
	令和4年5月17日	第1回役員会及び拡大役員会	アキシマエンス校舎棟	1名
	令和4年7月12日	第2回役員会及び拡大役員会・第1回 理事会	アキシマエンス校舎棟	1名
32期	令和4年10月18日	第3回役員会及び拡大役員会	アキシマエンス校舎棟	2名
	令和4年10月29日	第二ブロック研修会	立川市役所	7名
	令和4年11月12日	第三ブロック研修会	多摩平の森コミュニティホール	1名
	令和4年12月10日	交流大会・社会教育委員研修会	昭島市公民館小ホール	8名
	令和5年1月24日	第4回役員会	アキシマエンス校舎棟	2名
	令和5年2月14日	第5回役員会及び拡大役員会・第2回 理事会	アキシマエンス校舎棟	1名
	令和5年4月7日	令和4年度収支決算に関する会計監査	昭島市役所	2名
	令和5年4月15日	令和5年度定期総会	アキシマエンス体育館	8名
	令和5年5月16日	第1回役員会及び拡大役員会	調布市文化会館 たづくり	1名
	令和5年7月11日	第2回役員会及び拡大役員会・第1回 理事会	文化会館映像シアター	1名
	令和5年10月17日	第3回役員会及び拡大役員会	調布市教育会館	1名
	令和5年10月21日	第二ブロック研修会	アキシマエンス校舎棟	7名
	令和5年12月9日	交流大会・社会教育委員研修会	調布市文化会館 たづくり	4名
	令和6年2月13日	第2回 理事会	文化会館映像シアター	1名
	令和6年4月20日	令和6年度定期総会 (昭島市は議長担当)	文化会館映像シアター	3名
	令和6年7月9日	第1回 理事会	町田市役所	1名

2 一般社団法人全国社会教育委員連合関連の会議に出席した日程

	日 に ち	会 議 名	会 場	委員の参加数
31 期	令和4年5月20日	第1回理事会・第1回総会	日本弘道館ビル	1名
32 期	令和4年10月26日	第2回理事会	広島YMCA国際文化センター	1名
	令和4年10月27日	第2回総会	広島国際会議場	1名
	令和4年11月10～11日	関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会	甲府市総合市民会館	2名
	令和5年3月3日	第3回理事会・第3回総会	日本弘道館ビル	1名
	令和5年11月9～10日	全国大会宮崎大会第5分科会	宮崎市民文化ホール及び同市民プラザ	2名
	令和5年11月21・22日	関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会	栃木県総合文化センター	1名

3 令和3年度第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会について

第31期に開催された大会ではありますが、第2章の2で概略を述べたとおり、昭島市としても深く関わってきた活動なので、その軌跡を簡単に記しておきます。

大会開催の準備として、開催4年前の平成29(2017)年度(会長:立川市)は、積立金、準備会の立上げの検討・協議を始め、平成30(2018)年度(会長:武蔵野市)は準備会を4回開催しました。令和元(2019)年度(会長:三鷹市)は実行委員会を立ち上げ、昭島市もそのメンバーに初回から加わり、3回の実行委員会開催と委託業者の選択を行いました。令和2(2020)年度(会長:青梅市)は実行委員会を4回開催し、分科会のテーマ、開催趣旨、チラシ、募集方法、各市の役割分担、予算案等々を検討しました。令和3(2021)年度(会長:府中市)は、コロナ禍により前年開催地の新潟県に続き通常開催を見送りし、1日のみの開催に踏み切りました。実行委員会は6回開催し、実に延べにして13回の委員会を開催し、大会報告書をまとめ上げたうえで終了しました。初の試みとしては、東京大会のホームページを立上げ、期間限定での大会録画映像をYouTube配信しました。なお、東京大会開催時の大会実行委員は、以下の社会教育委員会議の議長が務めました。

委員長：令和3年度会長市 府中市

副委員長：翌年度会長市 昭島市・翌々年度会長市 調布市

委員：前々年度会長市 武蔵野市・前年度会長市 三鷹市

当年度第一から第五ブロック幹事

青梅市・武蔵村山市・稲城市・東村山市・狛江市

実行委員会事務局：上記に記載した実行委員10市の事務局が担当しました。

第4章 市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議(通称:あきしま会議)について

1 経緯

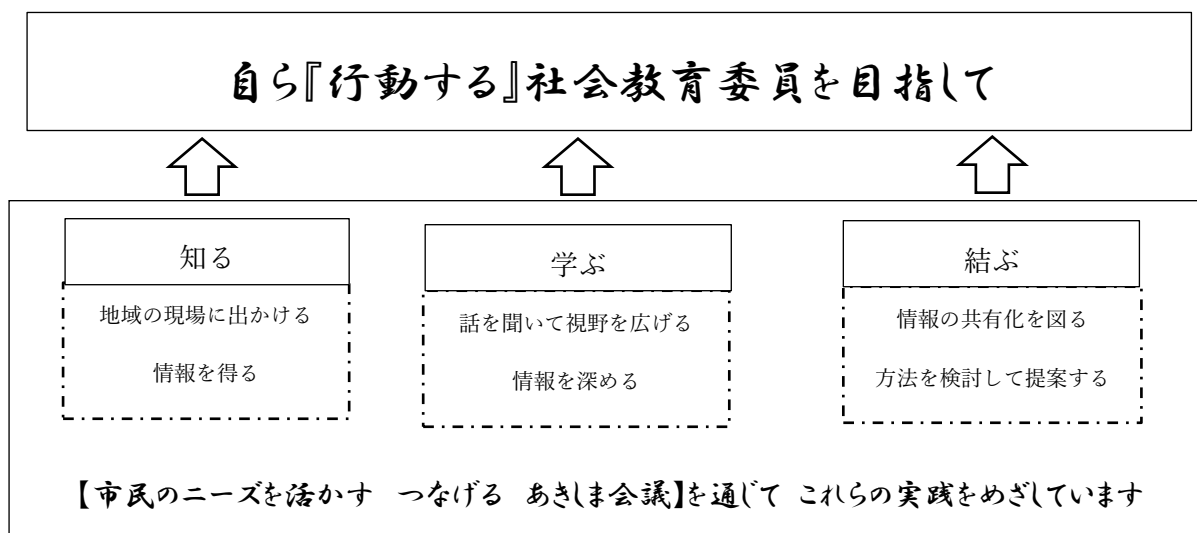
第29期の社会教育委員として活動するなか、「市民相互と地域のつながりを育てる」社会教育の実現を目指し、「市民のニーズ」を「捉える」「活かす」「つなげる」という観点から議論を重ねた結果、「表面に見えている市民のニーズに単に応えるのではなく、既に活動をしている市民から直接ニーズを聴くと同時に応援することによって、より意義のある活動支援へと広がっていくことができるのでは」という考えに至りました。そこでそれまで実施していた「社会教育・地域活動に携わる方々のための研修会」の見直しを行い、平成30(2018)年5月17日、昭島市役所内で初めての通称「あきしま会議」を開催しました。第32期のこれまでに、オンライン会議や若者限定版や番外編等を含め9回ほど開催しております。また参加者は、社会教育・市民活動などの主催者・参加者もしくは関心ある方、一個人として参加の市や社会福祉協議会の職員、国立市を初めとする他市の社会教育委員等々の方も参加するようになり、年代も小中高生から80代までと幅広く参加頂いてきております。

2 趣旨

あきしま会議の趣旨は以下のとおりになっています。

- (1)社会教育委員・市職員が市民の声を聴き、市民のニーズを把握する場であり、市民が社会教育行政にかかわる人たちに意見や想いを表明する場
- (2)今ある社会教育活動を互いに共有し、つながりを作る場
- (3)昭島市の未来について語り合う場

社会教育委員として心がけていること



3 第 32 期に開催したあきしま会議及び関連事項について

(1) ステップアップミーティング

令和 4 (2022) 年 6 月 12 日に第 7 回あきしま会議を開催した際、参加者から「これまで出された課題に対して実際に行動するプロジェクトを立ち上げないか」という提案を受けました。かねてより我々社会教育委員も単に情報の共有だけではなく、さらにもう一段ステップアップするための方策はないかを模索中でした。そこで募集はあえてせず、提案者、参加回数の多い方等特定した参加者に依頼し、第 8 回開催におけた番外編を開催しました。

参加数 : 15 名 (高校生 1 名・一般 6 名・社会教育委員 8 名)

開催日 : 令和 5 (2023) 年 3 月 18 日(日)

会 場 : 昭島市役所

目 的 : 3 つのテーマ(①交流の拠点づくり②今ある施設・制度をよりよく③情報発信・提供)をあらかじめ設定し、3 グループに分かれ意見交換してもらい問題意識を共有したのち、さらに全体共有したうえで今後のあきしま会議をどうしたらよいか・期待することは何かについて意見交換をしました。

(2) 第 8 回あきしま会議

参加数 : 30 名 (東京学芸大学生 4 名・高校生 5 名・中学生 1 名・一般 12 名・社会教育委員 8 名)

開催日 : 令和 5 (2023) 年 6 月 11 日(日)

会 場 : 昭島市役所

目 的 : 若者版(テーマ:若者のやりたいこと)と一般(テーマ:共創のしくみづくり)の 2 つのグループに分け、並行に進行して意見交換をしました。若者版は高校生有志がリーダーになり、若者が立ち上げたいプロジェクトについての検討。一般はさらに 2 つのグループに分けて、「情報共有・発信」と「施設」について意見交換し、社会教育・市民活動の活性化につながるための協議をしました。なお、西多摩新聞の二度目となる取材や J:COM「つながる News」の取材・放映がありました。

(3) フォローアップミーティング

参加数 : 7 名 (高校生 3 名・社会教育委員 4 名)

開催日 : 令和 5 (2023) 年 7 月 28 日(金)

会 場 : アキシマエンス校舎棟

目 的 : 第 8 回あきしま会議で意見が出された「ボランティア団体」「公園緑地化」「公式 LINE」が上がった中で、どれを実施していきたいか意見交換をしました。

4 第 65 回全国社会教育研究大会宮崎大会参加における事例発表について

昭島市社会教育委員会議が、日頃取組んでいる通称あきしま会議の活動について第 5 分科会(社会教育委員の役割)で事例発表をしたらという事になり、都市社連協としては初めてのことでしたが、宮崎大会実行委員会委員長宛て会長市事務局経由で応募し、令和 5 年 1 月に採用との知らせを受けました。8 月初旬に大会冊子掲載用原稿を作成提出し、9 月初旬には発表時の視聴覚機器等の使用確認並びにプレゼンター及び発表用原稿を提出しました。またこの間登壇者間での Zoom 会議も 2 度ほど開催しました。

(1) 事前打合せ

令和 5 (2023) 年 11 月 9 日(木) 11 時 20 分～12 時 宮崎市民文化ホール

- ① 明日の集合時刻 8 時 40 分
- ② 集合場所 宮崎市民プラザ オルブライトホール
- ③ 進行シナリオの確認・質疑応答と意見交流の流れ
- ④ 登壇者の席順及び準備品の確認
- ⑤ 実践発表者の機器・持ち時間・当日配布資料の確認
- ⑥ 司会者による登壇者の呼び名を決定
- ⑦ PC の使用の有無
- ⑧ 討議の視点の確認
- ⑨ 登壇発表者(1 名)に交通費・謝金の支給

参加者は、服部分科会責任者・黒木運営責任者・高松進行係・酒匂司会者・清國助言者・発表者:ニノ宮リム・谷部・宮崎県社会教育委員内田氏の 8 名で自己紹介の後、上記の最終確認を行いました。

(2) 全体会

令和 5 (2023) 年 11 月 9 日(木) 12 時 30 分～17 時 宮崎市民文化ホール

- ① アトラクション フラダンス ステージショウ
- ② 開会行事 主催者挨拶・来賓祝辞・歓迎の言葉・来賓主催者紹介・表彰
- ③ 特別対談 ～神話と牧水のふるさと宮崎から生涯学習の在り方を再考する～
- ④ シンポジウム ～社会教育の学びを生かし、人と人をつなぐ～
- ⑤ 閉会行事 主催者挨拶・次期開催の茨城県と鹿児島県の各代表の挨拶

大会終了後、会費制で大会登壇者の情報交換会がコロナ禍後初めて別会場にて開催され、昭島市からも 2 名が参加しました。

(3) 第 5 分科会 テーマ:社会教育委員の役割

令和 5 (2023) 年 11 月 10 日(金) 9 時 30 分～12 時 宮崎市民プラザ オルブライトホール

- ① 9:20～9:25 昭島市の四季を紹介するスライドショー
- ② 9:25～9:30 館内案内と注意・意見収集支援ソフト(slido)の使用方法的説明
- ③ 9:30～9:35 開会行事（高松・服部）
- ④ 9:35～9:40 分科会の進め方（酒匂）
- ⑤ 9:40～10:10 昭島市の紹介（谷部）「あきしま会議」の事例発表（ニノ宮リム）
- ⑥ 10:10～10:40 「生涯学習の視点にたった社会教育の在り方」の事例発表（内田）
- ⑦ 10:40～10:55 休憩
- ⑧ 10:55～11:35 質疑応答・意見交流
- ⑨ 11:35～11:50 助言（清國）
- ⑩ 11:50～12:00 閉会行事（酒匂・服部・高松）

意見収集支援ソフト(slido)とは、事例発表のさなか参加者にスマホからQRコードを登録して質問・補足説明要請等の項目入力をしてもらう。すると同様な項目を自動的に集約してスクリーン上にランク付けされた項目を表示し、発表者や助言者がそれを見て質問に対する回答・意見交換をする。また意見に対する賛否等を計る場合、グッドボタンでその割合もみられるといったシステムであります。そして会場の参加者による挙手発言も併せて行うハイブリット方式で行いました。また運営責任者の話では、9日の全体会の参加者数は約1,000人で、10日の第5分科会参加申込者は、第1分科会に次いで多い225名との事でした。なお、事例発表内容の概要は、みやざき学び応援ネットとして、令和5年度第65回全国社会教育研究大会が公開されており、宮崎大会実行委員会が編集発行したNo.5報告書、PDFのP80からの昭島市事例発表をご覧ください。

https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/downloads/longlife/miyazaki_2023/r05-miyazaki_report.pdf



5 東京都立大学法学部「地域づくりと地方自治」ゼミの学生からの調査依頼について

令和5(2023)年12月初旬にあきしま会議に関する調査依頼が、東京都立大学法学部「地域づくりと地方自治」ゼミの学生よりありました。

当初はオンライン会議によるヒアリングでの申し入れでしたが、諸事情により文書での回答となりました。問い合わせは、①あきしま会議の展望②認知の状況③参加者又は参加団体との関係性の変化等調査項目は7つあり、社会教育委員の一部の方と協議し、事務局が回答しました。なお、参考資料として宮崎大会第5分科会での発表資料も送付しました。

第5章 社会教育委員視察研修（自主研修）及び関係委員会報告等について

Ⅰ 社会教育委員視察研修（自主研修）について

第30期の令和2(2020)年2月に社会教育委員視察研修（自主研修）として、おだわら市民交流センターUMECOと清水テルサの視察を一泊二日で計画しましたが、残念ながらコロナ禍によりやむなく中止となりました。第31期もコロナ禍の影響で取りやめることになり、2期連続して中止となってしまったのは、誠に残念なことでありました。第32期はコロナ禍の鎮静化により、日帰りの自主研修でもよいから何とか実施したいという事で、後述のとおり実施しました。なお、昭島市からの参加者は、社会教育委員5名事務局2名の計7名で、調査目的並びに質問事項を事前に送付しておいたため、終始和やかな雰囲気のもとスムーズに意見交換をすることが出来ました。

実施日： 令和6(2024)年2月9日(金)

研修先： おだわら市民交流センター UMECO（柏木センター長・興津副センター長）

小田原市生涯学習センター けやき(木村社会教育委員議長・田村生涯学習課長等5名)

(Ⅰ)おだわら市民交流センター UMECO 訪問の概要

UMECO がアキシマエンシスの市民図書館と同様、指定管理者により運営されていることから、指定管理者は市民のニーズをどのように拾い、現場で活かしているのか、また行政との連携はどのようにしているのか等の調査を行いました。UMECO は、設立以前当時点在する老朽化した部署を1カ所に集約した施設として平成27(2015)年11月に「つながる」を基本コンセプトに市民活動のサポートセンターとしてオープンし、5年毎に小田原市事業協会・市民活動を支える会共同事業体と指定管理契約を締結し運営されています。

「UMECO だより」を年6回(1,500~2,000部、企業広告あり)発行し、10名編成の運営協議会は年2回開催、毎年12月に市民のニーズ把握のためアンケートを実施、回収率は7割と伺いました。当面の課題は若者の利用率の向上・地域活動の更なる連携・予約システムの利便性向上の3つを挙げていました。予約は、昭島市の区分制(午前・午後・夜間)と違い、午前9時から1時間単位で12時間通しても利用可能。利用料も会費制集会の場合、入場料が1,000円を超えると通常料金の2倍となかなかユニークな利用方法だと感心しました。最後に同施設館内を見学し、予約システムも試行入力させてもらいましたが、当該施設では他施設の予約はできないシステムのため若干不便であるものの、それ自体はよく出来ていると感じました。

(2)小田原市生涯学習センター けやき 訪問の概要

小田原市の社会教育委員活動に当たり課題等の意見交換を行うことで、我々も昭島市の社会教育行政へ活かすヒントが見つかるかもという事で訪問しました。同市の社会教育委員定数は13名ですが、市民公募はなく、学校教育の関係者3名、社会教育の関係者5名、家庭教育の向上に資する活動を行う者2名、学識経験のある者2名の計12名(男6名・女6名)で構成され、年4回程度会議を開催との事でした。コロナ禍では定例会議は書面会議で対応し、後にオンライン会議も実施しているとの事でした。最近の活動は、地区公民館の役割を再生するための研究報告を提出し、令和5(2023)年度スタートした「第4期小田原市教育振興基本計画」の推進に沿って、学校教育中心から「生涯の学び」に対象を広げ、社会教育・生涯学習における「新たな学びの視点」と捉え直し、その可能性について探る活動を展開中との事でした。我々の方は、社会教育委員の構成、定例会議回数、コロナ禍の活動状況、あきしま会議等の説明紹介を行いました。自主研修開催事情、自治会の加入率問題、公民館利用問題等についても意見交換しました。なお、田村生涯学習課長自身も社会教育主事の資格を持たれており、本日ここに同席すべき事務局員は、社会教育主事資格取得のために出張中との事でした。

2 関係委員会の活動報告について

(1)小学生国内交流事業運営委員会

日 に ち	内 容	会 場
令和5年6月8日	第1回昭島小学生国内交流事業運営委員会 事業内容及び予算、参加児童決定、その他	アキシマエンス
令和5年7月15日	受け入れ事前研修会・親子説明会	青少年交流センター
令和5年8月6日	参加者との夕食会	アキシマエンス
令和5年8月7日	お別れ会・見送り	アキシマエンス
令和6年3月18日	第3回昭島小学生国内交流事業運営委員会議 事業報告及び反省	アキシマエンス
令和6年5月30日	第1回昭島小学生国内交流事業運営委員会 運営委員紹介と役員選出	アキシマエンス
令和6年6月19日	第2回昭島小学生国内交流事業運営委員会 予算・研修実施計画	書面にて開催
令和6年6月30日	親子説明会 参加者紹介及び行動予定説明 その他	アキシマエンス
令和6年7月30日 ～8月1日	岩手県岩泉町での交流 団長として参加	
令和6年8月11日	岩泉町より受け入れ対面式	松原町高齢者福祉 センター
令和6年8月13日	お別れ会・見送り	アキシマエンス

(2) 青少年問題協議会

日 に ち	内 容	会 場
令和4年11月8日	令和4年度第1回青少年健全育成方針検討委員会 基本方針の検討、今後の進め方について	市役所
令和4年12月20日	令和4年度第2回青少年健全育成方針検討委員会	アキシマエンス
令和5年1月20日	令和4年度第3回青少年健全育成方針検討委員会	市役所
令和5年2月17日	令和4年度第4回青少年健全育成方針検討委員会	アキシマエンス
令和5年3月7日	令和4年第2回昭島市青少年問題協議会 青少年健全育成基本方針及び重点活動項目について 昭島市子ども・若者未来対策推進計画について	市役所
令和5年7月31日	令和5年度第1回昭島市青少年問題協議会 令和5年度青少年健全育成方針について 青少年善行表彰等審査委員会の設置について	市役所
令和6年3月28日	令和5年度第2回昭島市青少年問題協議会 令和6年度青少年健全育成基方針及び重点活動項目について	市役所
令和6年7月16日	令和6年度第1回昭島市青少年問題協議会 青少年善行表彰等審査委員会の設置について 昭島市子ども・若者未来対策推進計画専門委員会の設置について 情報交換・その他	市役所

(3) 健康づくり推進協議会

日 に ち	内 容	会 場
令和5年5月24日	令和5年度昭島市健康づくり推進協議会 昭島市いきいき健康フェスティバル・福祉まつりの実施について、健康あきしま21（後期）計画進捗状況について、ほか	あいぽっく（保健福祉センター）
令和5年9月18日	昭島市いきいき健康フェスティバル・福祉まつり 本部応援 来場者へチラシや水の配布	FOSTER ホール（市民会館）・公民館
令和5年11月8日	令和5年度第2回昭島市健康づくり推進協議会 イベント開催報告・健康あきしま21（第3次後期）計画策定について ほか	あいぽっく（保健福祉センター）
令和6年6月6日	令和6年度第一回昭島市健康づくり推進協議会 昭島市いきいき健康フェスティバル・福祉まつりについて 健康あきしま21（後期）計画進捗状況報告 -当協議会が策定委員会となり、次期計画策定に関わる予定	あいぽっく（保健福祉センター）
令和6年9月16日	令和6年度昭島市いきいき健康フェスティバル・福祉まつり 本部応援	FOSTER ホール（市民会館）・公民館

3 社会教育関係委員研修会の開催について

スポーツ推進委員会議、青少年委員の会、公民館運営審議会と社会教育委員会議の4つの委員会は、毎年2月に社会教育関係委員研修会を開催していましたが、コロナ禍によって令和2年度より4年連続中止としました。

第6章 今後の課題とまとめについて

1 今後の課題

(1) あきしま会議発足の経緯は、第4章1で述べたとおりであります。社会教育・地域活動に携わる方々が、行政側からの研修を受けるといった受け身の姿勢や意識から脱却し、自分自身が主体的に・対等に参画して意見交換し、参加者全員が問題・課題を共有し、昭島市の未来をどうしたらよくしていけるのかといった対話の場を創り上げてきました。その具現化には社会教育主事のリーダーシップ、社会教育委員の協力、社会教育課の理解とバックアップ、外部支援者のサポート等いずれかの1つでも欠いていたならば、これ程まで順調にこられたかどうかは、自信をもって言い切ることはできません。令和4年度末で残念ながら社会教育主事が退職され、ただちにその補充の募集をかけましたが、ほぼ11ヶ月の空白期間が生じました。やはりその間我々社会教育委員が活動を展開するに当たっては、社会教育主事の職務がいかに大切な身をもって実感させられました。先に述べた小田原市の自主研修では、公費で正職員に資格を取得させているとの話を伺い、その姿勢に感銘をうけました。昭島市でも同様な研修支援制度があると後で伺いましたので、我々社会教育委員としては、職務の空白等が生じないよう特に社会教育関連部署等に対して自己啓発の推奨環境を整えていただきたいと要望します。

(2) 第7回あきしま会議において、参加者の方から単に問題・課題の共有化だけでなく、さらに解決に向けたプロジェクトのようなものを立ち上げたらどうかという提案を頂きました。予算付けも含め、これからどのようにプロジェクトを実現していくかというのも大きな課題であります。また、第4章3-(3)で述べた若者向けのフォローアップミーティングを開催したものの、現状においてはストップ状態に陥ってしまっており、何らかのバックアップが必要と考えています。

2 まとめ

令和4(2022)年4月から輪番制で都市社連協の会長市になり、同年10月からの第32期は、若干の社会教育委員のメンバー交替がなされた新体制でスタートしました。その後まもない同年12月10日には交流大会・社会教育委員研修会、さらに翌年の4月15日の総会や10月21日の第二ブロック研修会等、それぞれ都市社連協の会長市として昭島市で主催しました。その都度講演者への依頼や折衝、交流大会等開催事前毎2度にわたる会場の配置の検討や放送機器並びにICT機器の点検、そしてさらに当日の進行表作りや会場造り等々事務局には大変頑張って頂きました。

また、社会教育委員自身も会場設営の補助を手始めに、司会、挨拶、受付、会計監査報告、総会議長等々の職務をしっかりと取り組んで頂く等、多大なる協力をして頂きました。また参加された他市の社会教育委員や事務局員の多くの方々のアンケートからは、総じて従来からの形式にこだわらず、大変おもしろくて独創的であり、対話の重要性を改めて認識させられたと言ったお褒めの言葉等を沢山頂きました。これも目指すベクトルが一致して、事務局と社会教育委員の相互の理解と協力体制がとてもうまく展開されている証だと強く感じております。この第32期活動の記録を提出するにあたり、ご協力を頂いた関係者のすべての方々に対し感謝を申し上げます。

各委員のメッセージ

「あきしま会議」をはじめ、昭島市社会教育委員と社会教育課がタッグを組んで展開してきた創造的な活動は、私自身にとっても貴重な学びの機会を与えてくれました。VUCA（変動・不確実さ・複雑さ・曖昧さ）の時代といわれるいま、昭島の地域づくりの在り方も大きな岐路に直面し、市民の学習と参画を支える社会教育がますます大切になっています。社会教育委員として、一人ひとりだれもが暮らしやすい昭島を支える活動を目指していきたいと考えています。

社会教育委員になり会議に参加して、活動している代表の方や、専門的な知識をもたれている方とお話をする機会があり、市内・市外での活動についてお聞きしながら、どのような取り組みを行っているのか知ることができました。また、事務局の方とも関係を築きながら、昭島の皆さんが充実した学びを進めることができるように、つなぎ役としての役割があるとも感じました。生活の中心である昭島市が、さらによくなってほしいと思います。

社会教育委員になって色々な経験をさせてもらっています。そこで研究大会や研修会を初め色々な会議に参加して感じる事なんですが、団塊世代の私と同様参加する皆さんは、それなりにお歳を召した方が多いです。元気な人というのは、多少の病気を抱えつつも、人生においてある目標とか、カラオケ等趣味の楽しみを積極的に追求し、実践している人たちなんですね。命というのは長さではありません。どう生きていくのが大事で、健康な体を与えてくれた両親に感謝しなければいけないと思っています。

3年にわたるコロナ禍を経て、社会は繋がり支え合うことの大切さを再認識しています。

地域の社会教育活動がその一助になることは間違いなく、社会教育委員としてその市民活動を見つめ繋ぎ支える役目を担っていきたいと考えています。

今期は大変気づきの多い任期であったと感じております。特に自分と価値観の違う人と良好な関係を築くことの難しさを身をもって感じました。

個人であったならば、価値観の違う人とは近づき合いにならないという選択もあったと思います。しかし、意図を理解することも、理解してもらうことも難しい時に選ぶ言葉が見つからない、ただただ手だてがないという経験をしました。自分とはなんと狭小な人間かと反省させられたものです。そんな時に非暴力コミュニケーションという新しい対話の手法と出会えたことはまさに喜びでした。

新しい対話の方法を会得して、あきしま会議に広がりを持てたらという希望が湧いてきました。

社会教育委員？ファシリテーター？あきしま会議？人間ビンゴ？

色々な情報に触れさせていただき、「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」、ようやく入り口にたどり着きました。

昭島市民のより良い暮らしの一助になればと思い、頑張って勉強します。

コロナ禍が始まった時期に社会教育委員となり、これまでの社会教育委員がやって来た活動がなかなか出来ない状態が長く続きました。しかし今期途中から、やっと通常に近い形で動き出すことが出来、私自身の学びの場も広がって来ています。そしてコロナ禍を経た事によって、社会全体がコロナ前とは明らかに違っていることも事実であり、これからの社会教育、人と人との繋がりや学びが、今後どうなっていくのかも気がかりであります。その上、今の日本社会ではマイノリティと言われている人たちを巻き込みながらの学びがまだまだ不十分だと感じ、これから取り組むべき課題も多いと考えています。

コロナも終息し、市内の社会教育関係団体も通常の活動ができるようになった団体もありますが、活動が前の状況より活発に行われていない団体も少なくないと思われます。今後とも生涯学習の意欲を高められるよう、また、新しく発足する団体への支援の必要性を感じた2年間でした。

おわりに

社会教育は、さまざまなコミュニティの中で行われる学びの継続を支えるものであると思います。学びの継続を支えるためには、①学びの場所が確保されている②学びを支える人材がそこに派遣される③学びたいという意欲（ニーズ）を持つ人々がいる、という条件がそろわなければ成立しません。

コロナ禍初期段階において、私たちは数か月ですが学びの場を完全になくしてしまいました。その時の苦痛を特に社会教育に携わる者は忘れてはならないと思います。

学びの場の確保、その多くは行政運営による公民館、市民会館、地区会館、図書館、児童館などになります。そのほか、地域コミュニティが持つ集会所、学校などの空き教室や体育館。あるいは公園、野外スポーツ場などになると思います。社会教育の活動を止めないためにも、新たなウィルス性感染症の発現を予測して、私たち社会教育委員は学びの場の確保をどんな時でも保障できるように、今回の事態を顧みて多方面に働きかけをしていかなければならないと感じています。

また、昭島市社会教育委員会が企画運営している「あきしま会議」の中で、最も重要と考えている「対話」について継続して取り組んで行きたいと思います。

昭島市社会教育委員会ではたくさんの方の支えで成り立っています。この活動の記録の中ではございますが支えてくださった多くの皆様に感謝を申し上げます。

第 32 期社会教育委員名簿

任期：令和 4 (2022) 年 10 月 1 日～令和 6 (2024) 年 9 月 30 日

議 長 谷 部 憲 一

副議長 松 本 智 子

委 員 石 川 くに子 (令和 5 (2023) 年 9 月 14 日から)

 // 石 河 誠 弘 (令和 5 (2023) 年 4 月 30 日まで)

 // 小 池 正 雄

 // 小 原 弘 樹

 // 齋 藤 明

 // 指 田 守 昭

 // ニノ宮リムさち

 // 信 國 遙

 // 前 川 法 彦 (令和 5 (2023) 年 4 月 20 日から)

 // 吉 川 泰 弘 (令和 5 (2023) 年 3 月 31 日まで)

(50 音順)

第 32 期昭島市社会教育委員会議
活動の記録

令和 6 年 9 月 2 6 日 発行
昭島市社会教育委員会議

問い合わせ：昭島市教育委員会事務局生涯学習部社会教育課
〒196-8511 東京都昭島市田中町 1-17-1
電話 042-544-5111（内線 2252）